

伊藤 ゆきひろの ちょっとタイム



便り <No.125号> 2021年 8月1日 発行

ごあいさつ

去る23日、実に57年ぶりとなる東京オリンピックが開幕しました。本市にゆかりのある選手も出場しています。新型コロナウイルスは衰えを見せず再三にわたる緊急事態宣言下で、外出制限や無観客試合により五輪開催の意義について様々な思いが交錯する今回の大会ですが、逆境に負けず苦難を乗り越え挑戦した選手の姿や涙に感動を覚えます。

コロナ禍は雇用にも大きな影響を与え、先般最低賃金の引き上げが過去最大と決定されたものの、事業主の負担増に雇用そのものの縮小が危惧されます。

さて、国は2050年カーボンニュートラルに向け、再生可能エネルギーの電源構成比率目標を2030年度までに現状の2倍増とし、化石燃料を半減近くまで縮小する方針を示しました。加えてEU連合欧州委員会はHV車を含むガソリン車新車販売を2035年に事実上禁止すると発表、米中も方向性は同様に環境規制によるEV車へのシフトが鮮明となります。EV車は車両の部品点数が少ないため雇用に与える影響が懸念されますが、自動車産業の大変革に追従できる地域経済の基盤強化施策に注力して参ります。



刈谷市議会議員

【事務所】	
刈谷市一里山町金山100番地 (トヨタ車体労働組合内)	
Tel	0566-36-3870
Fax	0566-36-6272
E-mail	itou@bwcom.or.jp
HPアドレス	http://y110.jimdo.com



歳時記

8月 7日 (土) 立秋

8日 (日・祝) 山の日

15日 (日) 終戦記念日・お盆

23日 (月) 処暑

24日 (火) パラリンピック開会式

31日 (火) 二百十日

海や山の盛りのシーズン。そして日々白熱の闘いが続く 異例すくめの夏季東京オリンピック大会ですが、正々堂々ベストを尽くすアスリート達には、輝かしい歴史的一幕が生涯心に残ることでしょう。後世に残る伝説が希望と共にあります様。

7月のフットワーク

2022年度 当初予算編成に関する市民クラブ会派の要望書提出

住みたい、住み続けたい まちに !!
"市民の安全・安心と持続的成長"に向けた
施策の予算化要望を市長に提出



行政施策への予算化要望 <分野別要望件数>	都市 環境	教育 文化	産業 振興	福祉 安全	計画 推進	計
重点要望	4	2	4	13	1	24
その他 個別要望	3			5	1	9
前年度からの フォローアップ	重点	8	3	5	4	20
	その他	11	4	1	6	25
計	26	9	10	28	5	78

市民クラブ 行政視察報告 (コロナ禍のためリモートで開催)

【視察テーマ】 つくば公共サービス共創事業 『つくばイノベーションスイッチ』

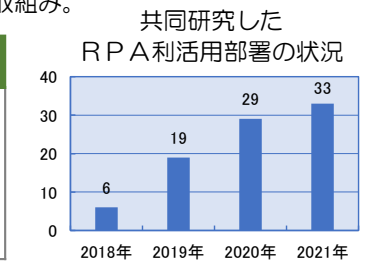
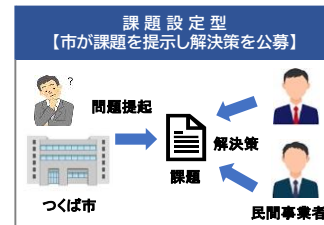
【日時・場所】 7月12日(月) 10時~11時 刈谷市議会 委員会室

【参加者】 市民クラブ会派(6名) 黒川 智明(会長) 佐原 充恭(事務局長)
中嶋 祥元 鈴木 浩二 深谷 英貴 伊藤 幸弘

【説明者】 茨城県つくば市 政策イノベーション部 情報政策課

<視察目的> つくば市は、逸早く民間事業者と協業し、ICTやAI技術を活用した行政業務の改革を行っており、その活用等を学び本市に活かすことを目的に視察する。

<事業概要> 「つくばイノベーションスイッチ」とは、公共サービス分野にICT技術の導入促進を図るため、民間事業者と共同で研究する取組み。



<所感> つくば市は、2018年に「つくば市情報化推進計画」を策定し、翌年「デジタルガバメント推進本部」を設置、全部署が業務効率化に取り組んでいる熱意を感じた。本市もつくば市の例を参考に、RPAやAI等を活かした業務効率化を図る組織体制の構築や職員教育を一層進め、市民サービスの充実向上に繋がる提言をしていきたい。

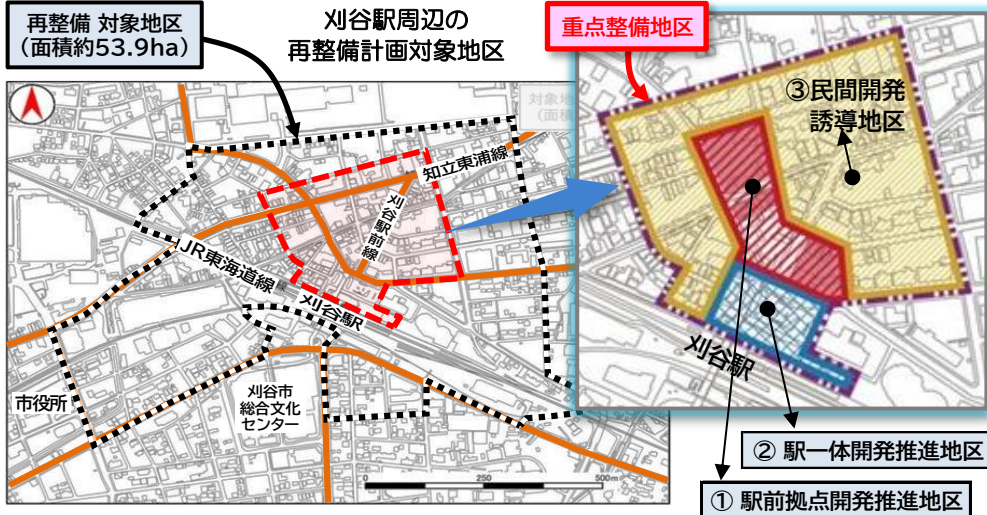
7月のフットワーク

『刈谷駅周辺 市街地総合再生基本計画』を紹介します。

【計画の目的】

刈谷駅周辺地区の土地の有効活用・都市機能の更新・良好な市街地環境など、時代の変化に対応した再整備を推進するための方針などの策定を目的とする計画。

≪計画期間 2021年度～2030年度≫



再整備地区の基本方針	『人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちづくり』
都市機能が充実し、人を引き寄せる賑わいあふれるまち	市の玄関口として、多様な都市機能の集積とともに、公共空間の活用などにより、市民や市外からの来訪者まで多くの人を引き寄せ、にぎわいあふれるまちを目指す。
安全・快適に回遊できる、歩いて楽しいまち	駅周辺一帯を1つの「駅まち空間」としてのつながりを持たせ、歩行者が安全で快適に回遊できる、歩いて楽しいまちを目指す。
駅前のよさを活かし、誰もが住みやすい、働きやすいまち	駅前の良さを活かしながら、複数の用途が融合したまちづくりを進めることで、誰もが住みやすい、働きやすいまちを目指す。

重点整備地区の整備方針	
① 駅前拠点開発推進地区	民間活力を活用し、共同化による土地の高度・有効利用と高度な都市機能集積を積極的に推進、刈谷駅北地区整備事業や周辺の道路活用と一体となって市の玄関口にふさわしい交流と賑わいの拠点を形成。
② 駅一体開発推進地区	民間活力を活用し駅や交流拠点施設、駅前広場などの開発を一體的に推進し、交通結節機能の強化とにぎわい創出を同時に実現。
③ 民間開発誘導地区	現状の土地利用を活かしたまちづくりを進め、各建物の更新時期や地権者の状況などに合わせて民間主導による共同化を促進し、立地にふさわしい都市機能の導入とまちなみを形成。

伊藤ゆきひろの ちょこっと情報 !!



刈谷 良いトコ ♪



夏の盛りの夕べ、竹林を背にして折り返す坂道を昇れば、時を捻じ伏せるようにうねる巨樹から、儚い命を懸命に燃やす蝉時雨が降り頻ります。川沿道路の高台、今はなき城跡地区です。さて、ここはどこでしょう？



7/1発行の<No.124>の答えは、城町の城町図書館と亀城小学校の間に建つ、江戸時代刈谷の学府・文礼館跡の石碑でした。由緒ある郷土の伝統と面影を偲ぶが如く、今に伝えています。

“幻の王国”への招待☆ (Chapter1)

日本の南の海に浮かぶ沖縄の島々、ここにはかつて琉球王国と呼ばれる独立王国がありました。15世紀半ばから450年間、中国や日本等との海上交易で栄え独自の文化を築いた王国がなくなった今も、人と人との絆は強く、命を大切に生きて来た沖縄の人々。その心を映した首里城を焼失したのは一昨年秋のことです。

その地下奥深く旧日本軍の司令部が置かれていました。大量の住民を動員して掘り進められた全長1kmにも及ぶ地下要塞は、77年の時を経て風化が進みます。

1945年4月1日未明、残波岬を目標にアメリカ軍が接近、1500隻の軍艦による上陸作戦を開始しました。艦砲射撃に続き、南岸の上陸へと埋め尽くされます。

米兵が迫りくる中、住民は子供や老人の手を引きガマと呼ばれる自然洞窟に逃げ込みます。5月末、発電機や通信機を装備した司令部を放棄し 南部へ撤退した日本軍。その時点で事実上の勝敗が決していましたが、地獄と形容された悲劇を終えられなかったのは何故でしょうか。本土決戦までの時間稼ぎのため、膨大な住民の犠牲を厭わなかった日本軍、南部の軍民入り乱れる戦場で攻撃に拍車をかける米軍。其々の軍隊の論理が優先された結果 犠牲者は12万人ともなりました。

8月の行事予定

- 8月 5日 (木) 臨時会 (議会役職選挙)
- 16日 (月) トヨタ車体労組議員懇談会
- 17日 (火) 9月議会議案説明会

“まじめにコツコツ、即行動”頑張ります!!

